



サイエンスアゴラ2011参加企画シンポジウム
「東日本大震災後の海洋汚染の広がりとその影響」

日時：2011年11月19日(土) 15時30分-17時

場所：日本科学未来館 7階 みらいCANホール

東京都江東区青海2-3-6

主催：日本海洋学会 震災対応WG

閉会の挨拶

日本海洋学会の 東日本大震災への対応

花輪 公雄

東北大学 大学院理学研究科
日本海洋学会 会長(2011/12年度)

日本海洋学会について (The Oceanographic Society of Japan)

本会は、海洋学の進歩普及を図ることを目的とし、海洋に関する研究会および講演会の開催、定期刊行物、学術上の刊行物の発行、研究業績の表彰および研究の奨励、その他必要な事業を行う。(会則第2・3条より)

創立: 1941年(昭和16年)1月 (本年は創立70周年記念の年)
会員数: 約1,900名 (一般個人, 団体, 学生, 海外の研究者も含む)
組織: 幹事会 (会長・副会長・幹事), 業務委員会 (3編集委員会, 3賞選考委員会, 選挙管理委員会など), 3研究会 (沿岸海洋研究会, 教育問題研究会, 海洋環境問題研究会), 1支部 (西南支部)

事業:

- (1) 研究会: 春 (関東地区)・秋 (その他の地区) の2回(400-700名の参加)
- (2) 機関紙: ① Journal of Oceanography: 英文論文・総説 ; 電子J, 年6号
② 海の研究 : 和文論文・総説 ; 電子J, 年6号
③ JOSニュースレター : 会務報告・情報記事など; 印刷物, 年4号
- (3) 顕彰: 学会賞, 岡田賞, 宇田賞, 日高論文賞, 奨励論文賞, 環境科学賞
- (4) その他: 学術刊行物の発行, 講演会の開催, 研究費支援事業, 海外渡航費支援など



日本海洋学会
The Oceanographic Society of Japan

Search This Site:

検索

Top | 学会刊行物 | 研究発表大会 | 入会案内 | 会費納入方法 | お問い合わせ先 | English

日本海洋学会は海洋学の進歩普及を図ることを目的として1941年に設立されました。

カテゴリー

English

ウェブサイト: <http://www.kaiyo-gakkai.jp/main/index.html>

「震災にともなう海洋汚染に関する相談会」@ 東京大学, 4月14日(木)

2011年4月14日に下記発起人を中心とした有志により、「震災にともなう海洋汚染に関する相談会」が開催された（後援：日本海洋学会、日本学術会議）。100名以上の参加者があった。

福島第一原子力発電所から放出されている放射性元素による海洋汚染が、どのくらい深刻であるのか、どのように拡がるか、海洋環境と水産資源にどの程度の影響を与えるか、海洋科学専門家は何をすべきかが議論された。それをとりまわって、下記のように、海洋学会に提案する基本方針と、海洋科学専門家がとるべき具体

相談会発起人：池田元美、植松光夫、蒲生俊敬、田中教幸

「震災にともなう海洋汚染に関する相談会からの提言

相談会参加者は以下の方針を確認し、海洋学会の総意として取り組むように提案する。また早急に具体活動を開始し、海洋学会を通じて様々な協力を、自らも含めた海洋科学専門家に求める。さらに学術会議SCOR分科会などを通じて他の海洋科学関係学会にも働きかける。



4月15日開催の海洋学会幹事会で議論し、「震災対応WG」の設置を決定。すぐ、活動を開始した。



共同通信社

日本海洋学会「震災対応ワーキンググループ」組織図

日本海洋学会 幹事会
(会長・副会長・幹事 計13名)

2011年4月
15日設置決定

震災対応ワーキンググループ (WG)

サブグループ

観測・監視

分析・
サンプリング

数値
モデリング

生態系

広報・
アウトリーチ

海洋汚染実態把握のための観測・監視の在り方の検討と提言
(世話役:津田)

海洋汚染実態把握のための観測項目・サンプリング方法の検討と提言
(世話役:植松)

海洋汚染の再現・予測のためのモデリングの在り方の検討と提言
(世話役:池田)

海洋生態系変化の実態把握と今後の対応策の検討と提言
(世話役:鈴木)

海洋汚染に関する情報の発信とアウトリーチ活動の企画・調整・実施
(世話役:川合)

所掌事項と世話役

メンバーシップ: WGは登録制, サブグループはオープン.

日本海洋学会「震災対応ワーキンググループ」機能図

目的

- 沿岸環境モニタリングを推進する
- 周辺国への責任を果たすため、外洋の汚染状況の調査を推進する
- 国内外研究機関等との連携・協力を進める
 - 海洋環境に関する情報開示を進める
 - 政策決定者に対して提言を行う

想定される連携・協力先

関連分野・関連学会

大気科学, 陸水学, 土壌学, 生態学, 放射線医学, 核物理学, 原子力工学...

国内・国外研究機関

JAMSTEC, 気象研, 水産総合研究センター, 大学, 自治体研究機関, WHOI, NOAA...

関係府省庁・地方行政機関

内閣府, 文科省, 農水省, 国交省, 経産省, 環境省, 厚労省, 総務省, 外務省, 都道府県庁...

民間機関・市民・マスコミ

東京電力, 一般市民, NPO, 国際NGO...

各サブワーキンググループの具体的所掌事項

観測・監視

- 外洋・沿岸・港湾等における観測体制の構築
- 調査・観測航海の企画立案と調整

分析・サンプリング

- 海水・堆積物・海洋生物等の試料採取・分析方法の検討
- 放射能分析の体制把握と効率的運用のための調整

数値モデリング

- 予測モデル提唱
- シミュレーション結果の比較検討と解説
- カギとなるプロセスの掌握
- 観測へのフィードバック

生態系

- 津波・流出化学物質などの影響に関する情報収集
- 食物連鎖等を考慮した評価・研究手法の提案

広報・アウトリーチ

- 新情報の検証
- 既存情報の集約
- マスコミへの対応
- インターネットを通じた情報発信
- 講演会の企画と開催

日本海洋学会 東日本大震災特設サイト



学会長声明

東日本大震災と原発事故に関する日本海洋学会の活動について

日本海洋学会
会長 花輪 公雄

2011年3月11日、マグニチュード9.0の「東北地方太平洋沖地震」により発生した巨大津波は、東日本の太平洋岸を襲い、多くの人命を奪うとともに、住居など多くの建物を破壊し、生活基盤と生産基盤を一挙に奪い去りました。日本海洋学会は、亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈りするとともに、被災地の一日も早い復興を願ってやみません。

今回の大震災では、地震の揺れと津波の襲来により福島第一原子力発電所が制御不能の事態となり、大量の放射性物質が大気と海洋に放出されたことが分かってきました。その量は、国際原子力事象評価尺度の最高レベルである「レベル7」と認定されるように、過去最悪の規模に達する恐れがあります。現在、流出と拡散に関する観測と監視、そして数値モデル中心として行われ公表されていますが、現状把握後の一層の改善と継続的な取り組みが望まれます。

福島第一原子力発電所の事故に起因する海洋汚染モニタリングと観測に関する提言

震災対応ワーキンググループ
観測サブワーキンググループ

モニタリング提言案

はじめに
2011年3月11日に起る電所（以下、原発と略）の損傷などを引き起および海洋に放出されはこれまで非常に高いれば、海洋への高濃度月29日-4月1日、4月3180 Bq/mlに達している-137比は低下しつつあ

福島第一原子力発電所事故に関する海洋汚染調査について（提言）

平成23年7月25日
日本海洋学会 震災対応ワーキ

今般の福島第一原子力発電所の事故は、海洋へ。このような事態に際して、海洋汚染の実態を外に公開していく必要があることはいうまでもなや情報公開は、政府以外の組織も含めた我が国の的責務であると認識している。

東京電力（株）は、3月21日に発電所放流口付し、翌22日以降は発電所南16kmまでの複数の海岸を実施している。4月2日からは沖合15km、4月178kmの観測点を追加するなど、測定対象観測点を文部科学省においても、3月23日に発電所沖合30kmに、観測点を追加し、同様に対象観測点を順次拡大（独）日

東日本大震災による海洋生態系影響の実態把握と今後の対応策の検討（提言）

2011年9月8日
日本海洋学会
震災対応ワーキンググループ
生態系サブワーキンググループ

はじめに
我が国に空前の被害をもたらした東日本大震災の発生からすでに半年が経過しようとしている。地震と直後に発生した大津波は一瞬にして多くの尊い人命を奪うとともに、住居や農地、交通機関、港湾施設、各種の公共インフラなど、被災地の生活基盤・産業基盤そのものを容赦なく破壊した。さらに福島第一原子力発電所では、水素爆発と汚染水の漏洩により大量の放射性物質が環境中に放出され、未曾有の放射能汚染を引き起こしている。放射能汚染は極めて深刻であり、その全容解明が急務であるが、東日本大震災によってもたらされた環境への影響はそればかりではない。海洋生態系について見ると、津波による直接的・物理的攪乱、陸上からの互融や化学物質の流出、電源域近傍におけ

この間、各SWGから提言を公表

アウトリーチ活動の例-1

アウトリーチ活動の狙い:

- ・ 専門家としての海洋放射能汚染の現状の紹介
- ・ 研究者としての関連活動の紹介
- ・ 社会（一般の方）のニーズを知るために（研究者が独りよがりにならないために）

多くの方の参加のもと、
活発な意見交換が行われました

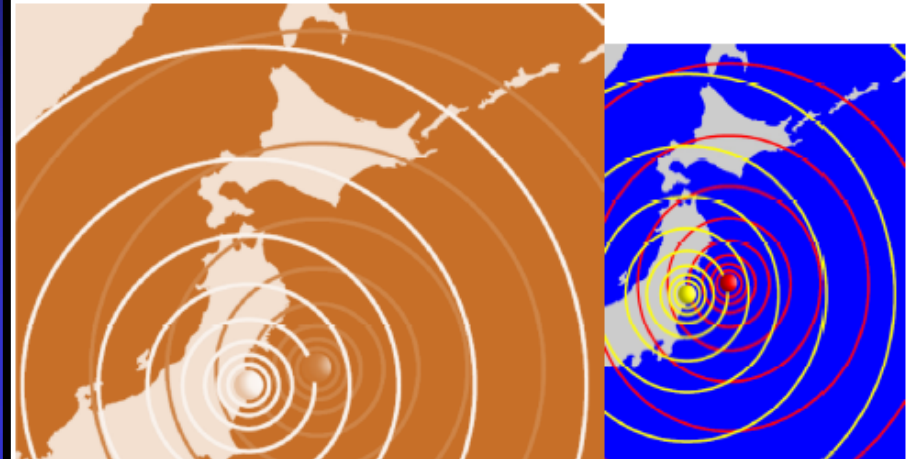
公開シンポジウム「海から見た東日本大震災」

2011年10月15日（土）13時30分から、日本海洋学会と東京海洋大学の共催で公開シンポジウム「海から見た東日本大震災」が東京海洋大学品川キャンパス開催されました。ご来場の皆様ありがとうございました。

公開シンポジウム

「海から見た東日本大震災」

共催



<プログラム>

13:30-13:40	日本海洋学会会長挨拶	花輪 公雄（東北大学）
	座長 小川 浩史（東京大学）	
13:40-14:20	地震と津波の概要	藤本 博己（東北大学）
14:20-15:00	津波の生態系影響	鈴木 昌弘（産業技術総合研究所）
	座長 神田 稔太（東京海洋大学）	
15:15-15:55	放射性物質の放出・拡散	本多 牧生（海洋研究開発機構）
15:55-16:35	放射性物質の生態系への拡散	石丸 隆（東京海洋大学）
16:35-17:00	総合討論	

日時:2011年10月15日(土) 13時30分~17時
場所:東京海洋大学 品川キャンパス 講義棟 大講義室

来聴は無料で予約等は不要ですが、会場が満員になった場合は入場できないことがあります。

詳しくは: <http://www.kaiyo-gakkai.jp/main/>



アウトリーチ活動の例-2



サイエンスアゴラ 2011

11月18日(金)～20日(日)
東京・お台場+地域にて開催!

[お問い合わせ](#) | よくあるご質問



サイエンスアゴラとは

新たな科学のタネをまこう

サイエンスアゴラ2011 新たな科学



サイエンスアゴラ2011参加企画シンポジウム

「東日本大震災後の海洋汚染の広がりとその影響」

日時：2011年11月19日(土) 15時30分～17時

場所：日本科学未来館 7階 みらいCANホール

東京都江東区青海2-3-6

主催：日本海洋学会 震災対応WG

<プログラム>

15:30～15:35 開会挨拶・趣旨説明 市川 洋(海洋研究開発機構)

15:35～15:50 講演 植松 光夫(東京大学)

「海洋放射能汚染の広がりを測る：わかること・わからないこと」

15:50～16:05 講演 升本 順夫(海洋研究開発機構)

「海洋放射能汚染の広がりを再現する：わかること・わからないこと」

16:05～16:55 パネルディスカッション

「海洋の環境保全・防災にかかわる監視・調査・研究の今後」

植松 光夫(東京大学), 尾林 彩乃(サイエンスカフェ水戸)

日下部 正志(海洋生物環境研究所), 鈴木 昌弘(産業技術総合研究所)

難波 美帆(早稲田大学), 升本 順夫(海洋研究開発機構)

コーディネーター：市川 洋(海洋研究開発機構)

16:55～17:00 閉会挨拶 花輪 公雄(日本海洋学会長, 東北大学)

おわりに

3.11以前とそれ以降

わが国は、広島や長崎の原爆投下による被爆、第5福竜丸の水爆実験による被爆など、3.11以前は被害国意識が強かったが、以降は他国を汚染に巻き込む加害国となった。

加害国の海洋研究者として何をすべきか

加害国の海洋研究者である私たちがすべきことは何か？ こう問題を設定をするならば、迅速に海洋汚染の実態とその影響を調査し、その情報を世界に発信することではないか。これは私たちの責務であろう。

この事故から冷静に学ぶことの重要性 (Lesson from ~~~)

今回の出来事は大変不幸なこと。一方では冷静に、この事故から徹底的に学ぶことが重要。例えば、被曝量とがん発症率の関係解明など。低被曝時は極めて低い発症率なので多数の事例（サンプル）が必要。今回の事故以前は不明であったこの関係を、解明できる「チャンス」。(人類の)将来のために、私たちはありとあらゆることを学ぶ必要があるのではないか。「今のこと」は、今知る必要がある。